

国営木曾三川公園

整備・管理運営プログラム

平成 24～28 年度の整備及び管理運営方針



平成 25 年 3 月

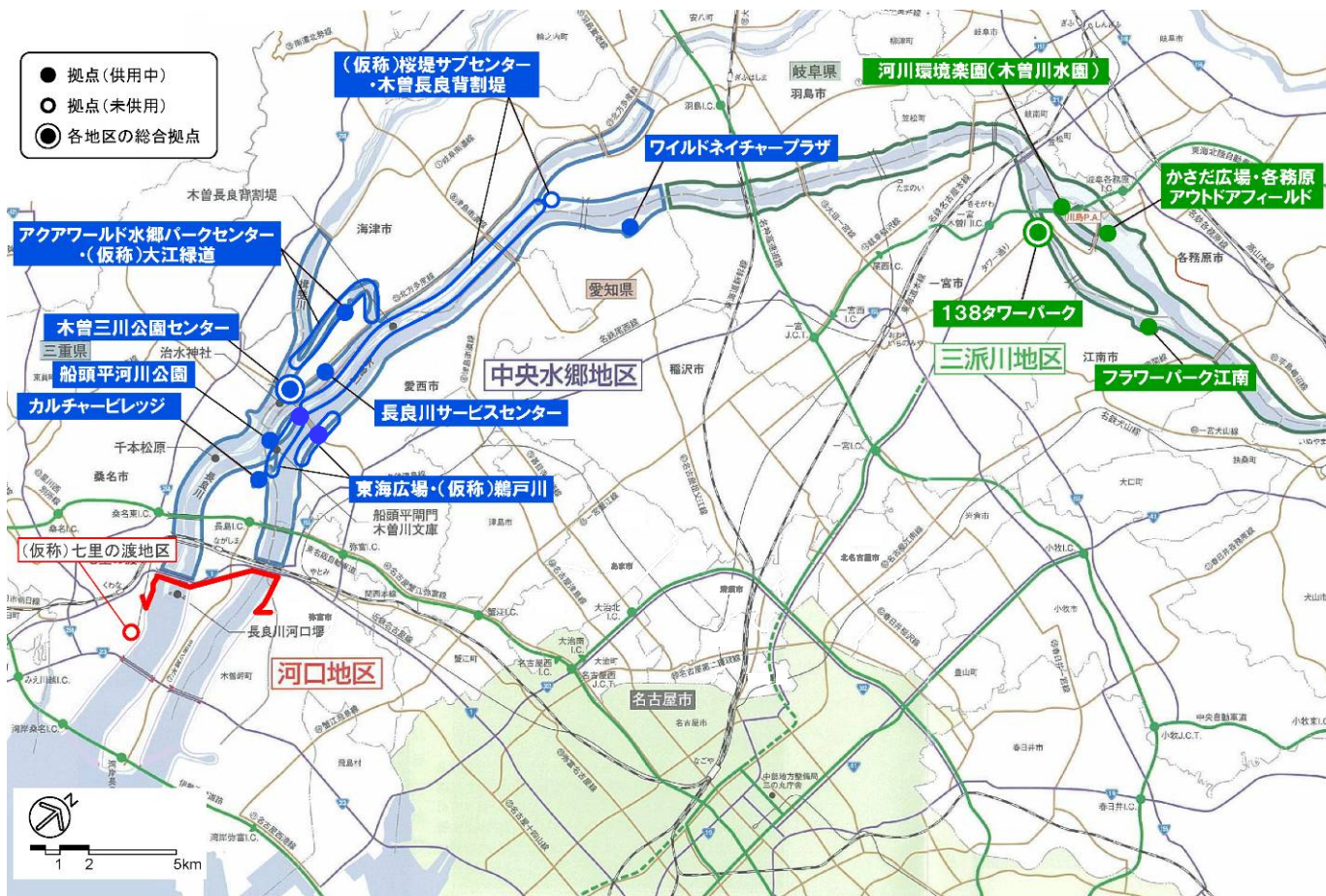
国土交通省中部地方整備局

1. はじめに

国営木曾三川公園は、木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川が有する広大なオープンスペースと豊かな自然環境を活用し、東海地方の人々のレクリエーション需要の増大と多様化に対応するために設置された公園です。川や流域のもつ魅力である自然環境や歴史文化そして広域的な広がり・つながりをいかしながら、これらを守り・感じ・楽しみ・学ぶ場として整備を進めています。

本公園は三派川地区・中央水郷地区・河口地区の3地区（計画面積約6,100ha）からなり、11拠点（約256.5ha）が開園しています。平成23年度には年間約860万人に来園いただきました。

この整備・管理運営プログラムは、社会資本整備重点計画の計画期間にあわせて、国営木曾三川公園の平成24～28年度までの整備及び管理運営に関する重点項目などを策定し公表するものです。なお、本プログラムは今後の社会情勢等を踏まえ、必要に応じて見直していきます。



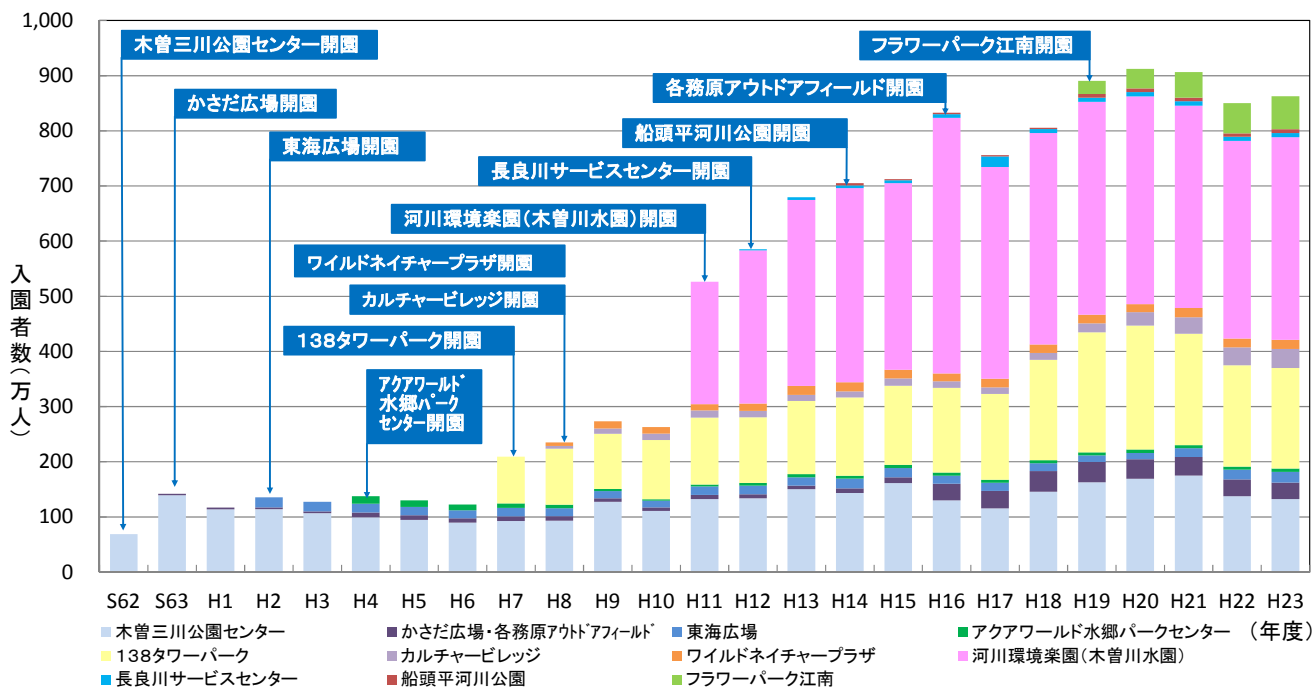
計画面積（都市計画決定面積）、事業承認面積、供用面積

（単位：ha）

地区名	計画面積（都市計画決定面積）				事業承認面積	供用面積
	堤内地	堤外地		計		
		高水敷	水面			
三派川地区	64.5	1,006.4	1,371.0	2,441.9	164.8	86.7
中央水郷地区	80.6	803.1	2,752.0	3,635.7	299.1	169.8
河口地区	2.2	7.4	0.0	9.6	9.6	—
計	147.3	1,816.9	4,123.0	6,087.2	473.5	256.5

※河口地区は、（仮称）七里の渡地区のみの面積。（平成25年3月末日現在）

入園者数の推移



開園状況

地区名	拠点名	開園年月	開園面積
三派川地区	フラワーパーク江南	H19.10	11.3ha
	かさだ広場 ・各務原アウトドアフィールド	S63.7 H17.3	11.3ha 10.8ha
	河川環境楽園(木曾川水園)	H11.7	32.9ha
	138タワーパーク	H7.4	20.4ha
中央水郷地区	ワイルドネイチャープラザ	H8.8	25.0ha
	(仮称)桜堤サブセンター ・木曾長良背割堤	—	—
	長良川サービスセンター	H12.10	88.7ha
	アクアワールド水郷パークセンター ・(仮称)大江緑道	H4.4 —	8.1ha —
	木曾三川公園センター	S62.10	11.0ha
	東海広場 ・(仮称)鶴戸川	H2.4 —	20.1ha —
	船頭平河川公園 カルチャービレッジ	H14.4 H8.5	2.7ha 14.2ha
河口地区	(仮称)七里の渡地区	—	—
合計			256.5ha

平成25年3月末日現在 (—は未供用)



三派川地区の総合拠点「138タワーパーク」



中央水郷地区の総合拠点「木曾三川公園センター」

2. 今後の重点的な取り組み

①木曾三川の特色をいかした整備・管理運営を進める

国営木曾三川公園は、濃尾平野のほぼ中央を貫いて流れる木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川を基盤とする河川公園です。

今後も引き続き、基本計画に基づきながら“選択と集中”により計画・整備・管理運営の各段階において河川とのつながり、拠点間のつながり、地域との連携を重視し、拠点の魅力の向上を図りながら、一体感のある公園づくりに重点的に取り組みます。そのことにより、人と自然の共生、環境問題への取り組み、快適な暮らしと生活環境の確保、良好なランドスケープ、交流・文化・産業をはぐくむ地域づくりへの寄与など多方面での効果を追求します。

1) 水辺の自然環境をいかす

木曾三川固有の河川環境・生物多様性の保全・再生に留意しながら、水辺に近づく場所や川の雄大な景観を楽しめる場など、川の魅力を感じていただくための取り組みを進めます。

また、環境教育プログラムの充実や適正な利用の誘導、きめ細かい環境管理など国営公園ならではの高度な管理運営を行うことで、河川環境の利用及び保全・再生に資する取り組みを進めます。



豊かな水辺環境が残るケレップ水制（仮称）桜堤サブセンター・木曾長良背割堤の計画地）

2) 歴史文化資源をいかす

木曾三川固有の資源としての歴史・文化等をいかしつつ、周辺のまちや地域資源と国営公園を結ぶ機能を拡充するなど、さらに個性的で魅力あふれる拠点の整備・管理運営を進めます。

3) 地域と連携し、ひとつの公園としての一体感を創出する

広い範囲に拠点が存在する特色をいかして、一つの公園としてより高い効果を発揮するため、複数の拠点が連携した取り組み、周辺のまちづくり、地域の方々と連携した取り組み等を進めます。

さらに災害に強い地域づくりにも寄与できるよう、関係機関との連携を図ります。

②全拠点の早期開園をめざし整備を進める

基本計画に位置づけられているものの整備に着手していない拠点や、開園していないエリアについて、コスト縮減を図りつつ、全拠点の早期開園をめざします。

③より安全快適な施設（再）整備を進める

すべての方に安全・快適に公園を利用していただけるよう、既存ストックの機能の検証や必要な改修、ユニバーサルデザイン化など、長寿命化の観点で計画的な維持管理と施設更新を進めます。



車いすやベビーカーの方にも使いやすい施設

④効率的・経済的な整備・管理運営を進める

今後とも利用者の皆様に満足していただけるよう、公園施設・サービスの維持・向上を図りつつ、効率的・経済的な整備・管理運営に努めます。

3. 整備及び管理運営の重点事項

●川に親しみ学ぶ場や歴史文化に触れることのできる場を提供します

- ・河川特有の自然環境の保全・再生を図りながら、良好なランドスケープを育み、川に親しみ、遊び、憩うことのできる公園を整備します。
- ・歴史文化遺産に触れることのできる新たな拠点として「(仮称)桜堤サブセンター・木曾長良背割堤」「(仮称)七里の渡地区」の整備を進め、公園機能の拡充を図ります。
- ・木曾三川をフィールドとした環境教育プログラムの充実に努め、様々な環境問題、人と自然の共生への啓発を進めます。
- ・木曾三川にまつわる歴史文化を活用した学習機会の充実に努め、個性的で魅力あふれる地域づくり・活性化に寄与します。



(仮称)七里の渡地区
(文化のシンボルエリア)

●沿川のまちづくりと連携した取り組みを進めます

- ・市民交流や観光の拠点として地域の活性化に貢献できるよう、集客力と情報発信力の向上に努めます。
- ・沿川自治体や河川管理者と連携しながら、木曾三川沿いのサイクリングロードのネットワーク化やスポーツ・レクリエーションイベントの開催に取り組みます。



チューリップ祭り

●利用者や市民団体・NPOの方々とともに、計画・整備の検討、管理運営を行います

- ・NPOやボランティアの方々との協働により、環境教育プログラムの充実や指導者育成、草花の維持管理などを行います。
- ・市民の方々との協働・連携を進めるにあたり、計画や整備の意見交換を進めます。



ボランティアによる活動

●安全・快適に利用いただける施設とサービスを提供し、災害時に避難地や防災拠点として機能するよう備えます

- ・すべての方に安心して公園を利用していただけるよう、園内のユニバーサルデザイン化を進めます。
- ・障がいのある方や高齢者、小さなお子様連れの方も楽しめるスポーツ・レクリエーションの充実に努めます。
- ・施設改修にあわせ案内サイン等のデザインを統一します。
- ・避難地や防災拠点としての機能を発揮できるよう、施設整備や自治体との連携体制の確立を図り、災害に強い地域づくりに貢献します。



経年変化に伴う再整備
(138 77-パーク・つどいの広場)

●既存施設の適切な修繕・リニューアル、計画的な維持管理を行います

- ・整備後、年数が経過し、老朽化が進んでいる施設等については、長寿命化の観点による適切な修繕・リニューアル(内容の更新)や計画的な維持管理により、ストックの有効活用を進めます。

●リサイクル・省資源に配慮した管理運営を行います

- ・園内で発生する剪定枝等の堆肥化や雨水の再利用、河川整備で発生する残土利用など、資源の有効利用とコスト縮減に努め、循環型社会の形成に寄与します。



フラワーパーク江南の堆肥化施設

4. 各拠点の整備・管理運営方針

三派川地区

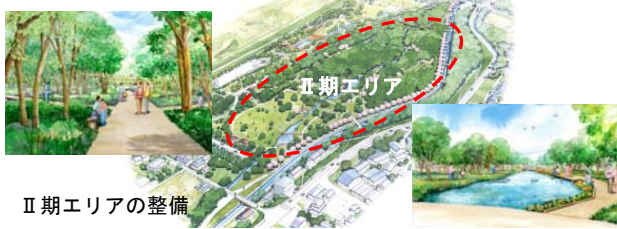
フラワーパーク江南

テーマ『花とみどりの学習』

都市緑化の学習拠点をめざして平成19年10月に開園しました。暮らしの中に花やみどりを取り入れ、身近な自然にふれる場となるよう、様々な生活場面に応じた緑化・花卉修景を進めています。平成24年度の堆肥施設整備をもってⅠ期エリア整備を完了しました。

花壇管理やイベント運営でも、ボランティアとの協力による運営管理を進めています。

今後は、里山景観をイメージしたⅡ期エリアの整備に着手します。また、環境教育プログラム・五感で楽しめる園芸の充実を図ります。



Ⅱ期エリアの整備

かさだ広場・各務原アウトドアフィールド

テーマ『河川の広大な空間と豊かな自然』

河川特有の自然環境(カワラサイコ・カワラヨモギ等が生息)を保全・再生しながら、広大な空間と豊かな自然の中で健康づくりやレクリエーション、自然散策などが楽しめる場となるよう整備を進めています。

また、市民の方々や研究機関などの協力を得ながら、竹林の活用や外来生物対策などに取り組んでいます。

今後は、礫河原の再生をめざします。また、市民と協働による保全の推進や、地域と連携したイベントを開催して利用促進を図ります。



礫河原環境の再生



スポーツ・レクリエーションイベント



※この図は各拠点の概ねの位置を示したものであり、赤い点線で図示した範囲にはすでに開園している区域や平成25年度以降に整備予定の区域も含まれています。

河川環境楽園（木曽川水園）

テーマ『川の自然と文化の環境共生型テーマパーク』 木曽川水園の役割～「木曽川が育んだ自然や風土・文化を遊びながら学ぶ」

「木曽川水園」では、木曽川の雄大な景観を楽しめる遊歩道・サイクリングロードの整備、また、隣接する研究施設やNPOと協働・連携しながら、環境教育プログラムの提供や指導者育成に取り組んでいます。

今後は、園路等の再整備により防災機能を拡充し地域に貢献します。また、地域の自然や歴史をいかした環境学習の充実を図ります。



環境学習活動



木曽川水園（農家と河原）

138タワーパーク

テーマ『三派川地区の総合拠点』

三派川地区の自然や歴史文化を幅広く紹介・情報発信するとともに、多くの人々が集い、交流する総合拠点として位置づけています。木曽川の雄大な流れを眺望できる「ツインアーチ138」をはじめ、大規模でユニークな施設が整備されています。また、花のイベントやイルミネーションなど年間通じて様々なイベントを開催しています。

今後は、平成25年度の概成をめざし、沿川まちづくりと連携を進めます。また、住民参加による河畔林の自然づくりや歴史文化資源と連携した環境学習に取組みます。



ツインアーチ138



歴史資源（御囲堤）

中央水郷地区

ワイルドネイチャープラザ

テーマ『祖父江砂丘の保全と活用』

木曽川特有の河岸砂丘である「祖父江砂丘」を活かし、ウィンドサーフィン等の水辺レクリエーションが楽しめるように、水辺に近づきやすい川岸やトイレ・シャワー、バーベキューが楽しめるピクニック広場・デイキャンプ場などを整備しています。

隣接する愛知県営公園、稲沢市営公園との3公園で連携した運営を進めており、平成 24 年度に3公園の愛称が「サリオパーク祖父江」に決定しました。

今後は、祖父江砂丘のさらなる保全・再生をめざし、年間を通した砂丘の利用促進を図ります。



祖父江砂丘（昔）



年間をとおした砂丘の利用

（仮称）桜堤サブセンター・木曽長良背割堤

テーマ『背割堤周辺の自然と歴史』

ワンドやオギ原、ヤナギ林など木曽長良背割堤に残る豊かな水辺環境の保全と、ケレップ水制や桜並木などの歴史遺産に触れることができる場となることをめざし、平成 19 年度より高水敷エリア整備に着手しています。

今後は、（仮称）桜堤サブセンター（高水敷エリア）と背割堤の新規開園をめざします。また、歴史的な治水施設の活用と河川環境の保全に取り組みます。



歴史文化資源の活用
（ケレップ水制）



（仮称）桜堤サブセンター
（高水敷エリア）

※この図は各拠点の概ねの位置を示したものであり、赤い点線で図示した範囲にはすでに開園している区域や平成 25 年度以降に整備予定の区域も含まれています。



長良川サービスセンター

テーマ『水上スポーツ』

長大な水面と河川敷を活かした高度なスポーツ・レクリエーションの拠点として整備を進め、競技スポーツから障がい者スポーツ・レクリエーションまで、様々なスポーツやレクリエーションが楽しめます。また、競技団体や大学等と連携しながら水上スポーツや障がい者スポーツ等の活動や、指導者育成の拠点として活用されています。

今後は、平成 25 年度の概成をめざします。また、水辺をいかしたスポーツやレクリエーションの利用促進を図ります。



水面を利用した競技
大会や体験活動



各種スポーツの競技
大会の誘致

アクアワールド水郷パークセンター・（仮称）大江緑道

テーマ『水郷の自然と風景』

アクアワールド水郷パークセンターは、市民団体やNPO等とパートナーシップを結び、環境学習や文化活動など幅広い市民活動の場として利用されています。

今後は、平成 25 年度から（仮称）大江緑道の整備に着手します。また、水郷を活かした環境学習や歴史学習の充実を図ります。



パークパートナー棟



環境学習活動

中央水郷地区

木曾三川公園センター

テーマ『中央水郷地区の総合拠点』

中央水郷地区の自然や歴史文化を幅広く紹介・情報発信するとともに、多くの人々が集い、交流する総合拠点として位置づけています。展望タワーから木曾三川の雄大な流れや輪中地域独特の地形を眺望できるほか、「水と緑の館」では映像などで木曾三川にまつわる歴史文化等をわかりやすく紹介しています。また、施設の老朽化対策や園内施設のユニバーサルデザイン化も進めています。さらに、年間を通じて花のイベントやイルミネーションなど、様々なイベントを開催しています。

今後は、平成 25 年度の概成をめざします。また、輪中の歴史文化に関する学習プログラムや周辺施設と連携したイベントの充実を図ります。



展望タワー

東海広場・(仮称) 鵜戸川

テーマ『水辺の自然と広大な空間』

水辺の自然に親しみ、広大な水辺の空間の中で各種スポーツやイベント、デイキャンプなど様々な屋外レクリエーションを楽しむことができるエリアとして整備を進めています。

今後は、平成 25 年度から(仮称)鵜戸川の整備に着手します。また、多目的に利用できる水辺空間のさらなる利用促進を図ります。



(仮称) 鵜戸川の整備イメージ



東海広場 (右岸)
(一万人広場)



※この図は各拠点の概ねの位置を示したものであり、赤い点線で図示した範囲にはすでに開園している区域や平成 25 年度以降に整備予定の区域も含まれています。

船頭平河川公園

テーマ『木曾三川の水生植物』

水に囲まれた立地を活かし、ハスをはじめカキツバタ、コウボネ、ハナショウブ、スイレンなど様々な花がみられる美しい憩いの場として整備しています。

今後は、ハス田修景池の適切な保全と広報による利用促進を図ります。



ハスの開花時期等の利用促進

カルチャービレッジ

テーマ『多様な文化活動を通じた広域交流』

スポーツや文化交流など多様な活動を通じて多くの人々が集い、にぎわいを創出する地域交流の拠点となることをめざしています。平成 19 年 11 月に多目的運動場「輪中ドーム」がオープンし、平成 22 年 10 月に追加開園しました。「輪中ドーム」を活用した大規模な地域イベントや近接施設との連携も行われています。さらに、桑名市と災害時の協定締結も行っています。

今後は、平成 25 年度の概成をめざします。また、周辺施設と連携したイベントの充実を図ります。



霧の輪中



地域連携イベント(水郷フェスタ)

河口地区

(仮称) 七里の渡地区

テーマ『木曾三川を軸とした交流と繁栄の歴史』

一帯は東海道の要衝「七里の渡」をはじめ、地域の象徴であった桑名城跡や旧東海道の街並み、国の重要文化財六華苑(旧諸戸家住宅)、史跡名勝天然記念物諸戸氏庭園等が残る歴史的なエリアとなっています。

(仮称)七里の渡地区は、川とまちを結び木曾三川を中心とした人や物の交流が生まれ、文化を育み、地域の繁栄につながった歴史を紹介する情報発信拠点として計画しています。平成 20 年度に事業着手しました。

今後は、平成 27 年度に新規開園をめざします。また、市民活動やNPOとの協働により、周辺まちづくりと連携した伝統文化の継承と利用促進を図ります。



5. ネットワーク形成のための整備・管理運営方針

①遊歩道・サイクリングロードのネットワーク化

木曾三川の広大な空間をいかすとともに、健康づくりを支援するレクリエーションとしても遊歩道・サイクリングロードは重要な役割があるため、河川管理者や沿川自治体との連携のもと、三派川地区のネットワーク拡充と有効活用、中央水郷地区においてはネットワーク整備の事業化の取り組みを進めます。

また、利用促進のための施設配置や利用情報及び利用者の安全確保についても河川管理者や沿川自治体と連携して取り組みます。

②周辺地域との連携など広域的な利用の促進

周辺の公園緑地や歴史文化資源を広域的にめぐり、木曾三川の雄大な景観や豊かな歴史文化を楽しんでいただけるよう、沿川自治体と連携してマップ作成等の情報提供や、イベントの実施など利用促進に取り組みます。

また、公園へのアクセス向上、交通渋滞の緩和や駐車場の確保などの課題は、関係機関と連携しながら、地域のまちづくりと一体となって取り組みます。

③エコロジカルネットワークとしての魅力や意義の発信

木曾三川は濃尾平野のほぼ中央を貫き、中部圏の骨格的なエコロジカル・ネットワークとして重要な役割を果たしています。自然環境の連続性を確保した整備に努め、木曾三川のもつ自然環境や風土の魅力を発信することで、水と緑のエコロジカルネットワーク形成の意義を広めていきます。

④流域の一体感の醸成

木曾三川流域全体の自然環境を基礎とした歴史や地域文化、地域資源のつながりを意識した管理運営を進めます。流域ぐるみのイベントの拡充、拠点連携イベントや流域文化の発信などの取り組みを進め、流域の一体感の醸成に取り組みます。

⑤広域防災への寄与

河川管理者等の関係機関と連携して広域的な防災機能を発揮できるように、大規模災害時における長大な空間や公園施設等の活用方法の検討を進めていきます。



6. 事業効果

①利用者数の増加

新規拠点の開園、環境学習やイベントの充実などにより公園の魅力が向上し、利用者数の増加が期待されます。

②満足度の向上

川を身近に感じられる空間や安心して利用できる施設を整備するとともに、市民やNPOの方々と協働して質の高いサービスを提供することにより、利用者の満足度や公園への愛着が高まります。

利用者へのアンケート調査では、およそ96%の方から「非常に満足」または「まあまあ満足」との評価をいただいています。今後もさらなる満足度の向上をめざします。

③自然環境や歴史文化への理解の増進

人と川とのふれあいの空間や歴史文化に関する展示学習施設を整備するとともに、質の高い環境教育プログラムを提供することにより、より多くの方々に木曾三川の自然環境や歴史文化を知っていただけます。

④水辺景観や生物の生息・生育空間の保全

ワンド、オギ原、水辺林や樹林地などの保全を行うことにより、河川らしい水辺景観や生物の生息・生育環境が保全されます。

⑤地域の活性化

地域と連携してイベントを行ったり、周辺の公園緑地や集客施設との一体的な利用を促すような施設整備やイベント開催、情報発信等を行うことにより、地域の観光振興やにぎわいの創出に貢献できます。

⑥河川空間を活かしたレクリエーションの充実

多目的に利用できる広場やデイキャンプ場などを整備したり、競技団体等と連携しながらイベントの充実を図ることにより、広大な河川空間を活かした特色あるスポーツやレクリエーションをより多くの方々に楽しんでいただけるようになります。

⑦ノーマライゼーションの推進

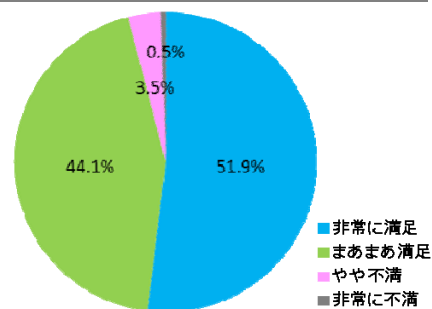
園内のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、障がいのある方も楽しめるレクリエーションや交流の場を提供することにより、ノーマライゼーションの推進に貢献できます。

⑧環境負荷の軽減

維持管理作業により発生する剪定枝や刈草の堆肥化や雨水利用を行うことにより、公園管理に伴う環境負荷が軽減されます。

⑨防災性の向上

避難地や防災拠点としての施設整備により周辺地域の防災性が向上します。



平成23年度利用実態調査（河川環境楽園・138タワーパーク・木曾三川公園センター）



歴史文化を活用した環境学習



多様な河川環境の活用・保全



流域祭



長良川国際トライアスロン



障がい者カヌー



広域防災（広域支援基地設置訓練）